



佐々木中学校だより

TEL : 0254-27-2505

E-mail : sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp

URL : http://sasaki-j.shibata.ed.jp

教育目標
よく考え、進んで
実践する生徒

人の心理的発達について

校長 星 和富

今回は『エリクソンの心理社会的発達理論（ライフサイクル理論）』を紹介します。これは人の心理的発達理論の一つです。この理論のポイントは、心理的発達を8つの時期に分け、発達段階において乗り越えるべき課題と危機が設定されているところです。発達課題をどのように乗り越えたかが、その後の人格形成に大きな影響を与えるとされています。

	時 期	おおよその年齢	乗り越えるべき課題と危機		重要な対人関係
1	乳児期	0歳～1歳半頃	基本的信頼感	不信感	母親的人物
2	幼児前期	1歳半頃～4歳	自律性	恥・疑惑	父親的人物（複数）
3	幼児後期	4歳～6歳	自発性	罪悪感	基本的家族
4	児童期	6歳～12歳	勤勉性	劣等感	近隣の人・学校
5	青年期	12歳～22歳	同一性(アイデンティティ)の確立	同一性(アイデンティティ)の拡散	仲間集団・外の集団 成人モデル
6	初期成人期	就職～結婚	親密性	孤立	友人・ライバル、協同の相手
7	成人期	子供を産み育てる時期	生産性	自己停滞	家庭と分掌の相手
8	成熟期	子育てを終える時期	統合性	絶望	人類や種族

乳児期は、「誰からもありのままの自分を受け入れてもらえる。（安心感）」「誰からも受け入れてもらえる価値のある人間だ。（信頼感）」という基本的信頼感を育む時期です。周囲の人から抱っこしてもらったり、おむつを換えてもらったりなどのケアをしてもらう中で育まれます。この時期に十分なケアが不足すると不信感が高まります。

幼児前期は、言葉が出たり自分の意思で行動できたりするなど、自律性が身に付く時期です。行動が、大人の意味と違っていれば怒られたりします。乳児期のようにありのままを受け入れてもらえなくなります。成功すると褒められ、失敗すると恥ずかしい思いをするなどしながら自律性を身に付けていきます。子供は、親と過ごす時間が短くなり、不安を感じる機会が増えます。抱きしめたり、「大好きだよ」などと声掛けをしたりし、安心感を与えることが大切です。

幼児期後期は、怖い思いを知らない子供は、様々なことにチャレンジするという自発性が高まる時期です。怒られたり、比べられたりだけだと、周りの目を気にして自発的に行動できなくなります。感情的に怒ったり、理由も聞かず頭ごなしに怒ったりすることは止め、よくできたことは褒め、本人を認め、普段からよく話を聞くことが大切です。

児童期は、認められる喜びや心地よい気持ちを学習し、勤勉性を定着させる時期です。努力し、やり遂げ、周りに認められるという経験を重ねると自信をもてます。逆の経験が増えると自信を喪失し劣等感を募らせ、人間関係や学力に影響を与えます。子供の努力している過程を褒めたり、やり遂げたことを認めたりすることが大切です。チャンスを見逃さず行うことです。

青年期は、これまで理想とした人や考え方に向かって真似ていた自分から、独自の自分を創り出す時期です。そのため、人のせいにしたり人に任せたりできなくなり、孤独や自己不信を感じながら独自の自分を創っていきます。子供には自分と他者を認めていけるよう、大人として精一杯生きている姿を示し、温かく見守ること、対等な人として向き合うことが大切です。

（※エリクソンの理論には様々な捉えがあります。）

この理論では、課題と危機が“対”という形で出てきます。エリクソンは、人の心の中に“+”と“-”の様に拮抗する力が存在し、“+”と“-”のバランスが人の成長には重要と考えたようです。成長過程では“+”も“-”も経験し、最終的には“+”が上回ることが重要だと説明している資料もありました。

佐々木中学校の生徒は、家庭や地域の支援のもと、それぞれの時期の発達課題を適切に乗り越えてきた子ばかりと感じています。中学校でも生徒の資質能力をますます伸ばせるよう努めてまいります。

佐々木中の全校生徒数は、61名と少数です。しかし、生徒の活躍は目覚ましく素晴らしい結果を残しています。そのいくつかを紹介いたします。

第33回 毎日カップ 体力つくりコンテスト 文部科学大臣賞受賞！！

毎日カップ「中学校体力づくり」コンテストの小規模校の部で、最高の賞である“**文部科学大臣賞**”を受賞することとなりました。

今年のコンテストは全国から約4,200の中学校が応募しました。体力テストの結果や書類審査を経て最終選考対象校12校が選ばれました。佐々木中学校はその12校に残り訪問審査を受けることとなりました。

審査は、3年生の保健体育のマット運動の授業、集団行動、佐中サーキットの参観の後、掲示物等の確認、今までの取組をヒアリングするという順で行われました。生徒は、審査が行われていても、緊張することもなく普段通り、大きい声で互いに励まし合うなど、一生懸命に活動しました。佐々木中学校の生徒の良さである“**何事にも一生懸命**”“**全校一体となって活動できる**”などを見ていただけました。当日は、職員一同改めて、生徒の素晴らしさを再確認しました。本当に素晴らしい生徒たちです。

表彰式は、12月7日、毎日新聞東京本社で行われます。当日、代表生徒2名とが受賞に参加します。表彰式後、受賞校を代表してスピーチを行う予定です。引率は、職員が行います。表彰式の様子については、12月の学校だよりで紹介させていただきます。



第34回 国民文化祭・にいがた 2019

第34回国民文化祭・にいがた 2019

「詩(ことば)フェスティバル」の俳句の部で2名の生徒が入選しました。今回のテーマは「良寛と花火」でした。それぞれの思いで、花火のあがる様子がうたわれています。作品を紹介します。



3年 W さん

「残暑の夜闇に轟く光のフィナーレ」

松浜の花火の最後に打ち上げる特大花火に心を打たれ、その豪快な花火の様子を句にしました。



3年 I さん

「夏の夜の水面に映る三尺玉」

家族で行った長岡花火で、花火が川に映っている様子がとてもきれいで思い出に残ったので、その様子を詠みました

下越地区中学生柔道 1・2 年生体重別大会

下越地区中学生柔道 1・2 年生体重別大会が行われ、女子個人戦で、2 年生の G さんと K さんの二人がそれぞれ 3 位に入賞しました。G さんは「少し疲れたのですが自分から倒れないでできました。次の大会でも頑張りたいです。」、K さんは「いつも負けていた相手に勝って、3 位になれて嬉しかったです。」と感想をよせてくれました。今後の活躍を期待します。



国土緑化運動・育樹運動

国土緑化運動・育樹運動標語部門で 2 年生の N さんが奨励賞を受賞しました。賞状は白木で作成されています。



2 年 N さん

「木を植えて皆で咲かそう緑の命」

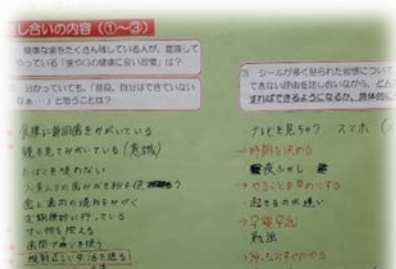
木は人と一緒に大きく育っていくので、自然の緑を命に例えて標語を作りました。

※第 50 回県ジュニア展で、1 年生の W さんと 2 年生の Y さんが奨励賞を受賞しました。12 月の学校だよりで紹介します。

☆☆☆日々の活動でも活躍が光ります。☆☆☆

学校保健委員会

学校保健委員会は「学校における健康の問題を研究協議し、健康づくりを推進する組織で、学校と家庭、地域社会を結ぶ



もの」です。法律に基づいて開催します。佐々木中学校でも小学 6 年生、保護者と地域の方、そして学校医の方にお越しいただき学校保健委員会を開催いたしました。今年度のねらいは「①生涯にわたる歯科保健の重要性について理解を深める。②歯や歯肉の健康を守るために、自分にとって必要な目標を設定し、適切な行動に結びつける。」の 2 点でした。保護者、地域の方を交え、「80 歳になっても 20 本以上健康な歯を残すために今からできること」というテーマで話し合いを行いました。話し合いは、円卓を囲んで行い、各卓に地域の方、保護者の方に入っていました。大人の方を交えて実のある話し合いが行われました。話し合いは、「健康な歯をたくさん残している人が意識してやっていること」を出し合い、その中から『「普段、自分はできていないなあ』と思うことは?」を班として選び、それについてできない理由を考え、どんな工夫をすればできるようになるか具体的に考えるという順で行われました。今回の会には、多数の保護者の皆様、地域の皆様、そして関係される方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

2年生職場体験ミッション

2年生が、職場体験で体験先から頂いたミッションについて提案発表を行いました。この取組は、昨年度から行われているもので、今年で2年目となります。職場体験に行った2年生が、単に体験作業をするのではなく、職場の担当者から職場の問題について説明を受け、その解決策を提案するという活動になっています。当日の提案発表会は、職場体験先の担当者の方はもちろん1年生や保護者の方も参観する形で行われました。2年生は大変趣向を凝らし提案発表を行っていました。体験先と与えられたミッション、それに対する提案、そして体験のまとめを紹介します。

【イクネス新発田】ミッションは「休日に、中高生が楽しめる図書館イベントを考える。」が与えられ「インスタカフェを2Fの多目的室2に設ける」ことを提案しました。最後に「インスタを取り入れて本と関わりをもたすことで、本の魅力を知ってもらい利用者が増えればよい」とまとめていました。

【佐々木耕起組合】ミッションは「お米や餅を買ってくれる人を増やすにはどうすれば良いか？お米やお餅のアレンジレシピを考える。」という2つが与えられ「佐々木耕起組合のキャラクターとして『米坊』と『もっちゃん』を創ること『えちごへいや』の復活、また米や餅のスイーツを作ることを提案しました。最後に「佐々木耕起組合のことを知らない人も、キャラクターに興味をもって佐々木耕起組合で売っているお米やお餅を買って食べてみようと思う。『えちごへいや』が復活すればお米やお餅の消費者も増える。お米やお餅をアレンジして作ったスイーツを売れば、それにも興味をもつ人が増える」とまとめていました。

【夢ハウス】ミッションは「中学生目線でショールームグッズを考えよう」が与えられ「ペン立て、棚、コップ、コースター、皿、スプーン、フォーク」を提案しました。最後に「夢ハウスの木材を利用して学校や地域とコラボした商品名を入れるなど工夫をしてお客様に提供する」とまとめていました。

【ヨリネス新発田】ミッションは「佐々木コミュニティセンターの利用者を増やすために、情報発信グッズの作成やイベントを考える」が与えられ「情報発信グッズの作成ポスター作り、利用者を増やすためのイベントを考える」を提案しました。最後に「何か企画するときにはターゲット・テーマ・理由が大切で、中学生だからできないは考えず、まずは意見を多く出してその上で決めることが大切」とまとめていました。

【たから保育】ミッションは「5歳児に自然の命の大切さを伝えるためにどんなことができるか考えよう！」が与えられ「虫を題材に、クイズや絵やポスターを作る」と提案して「クイズだけでなく虫の寿命を伝えることで虫の命の大切さを教えることができた。虫だけでなく、花や木などの植物の命の大切さも伝える園庭で子供たちと実物を見ながら紹介や説明をしたい」とまとめていました。

【コンフィ陽だまり苑】ミッションは「ご利用者様の喜びを見つけ皆のできるレクリエーションを考えよう」が与えられ「コップタワー倒し」を提案し「ご利用者様やご利用者様の家族の気持ちになって、どのような介護をされたらうれしいかを考えること。ご利用者様は、人生の先輩なので尊敬の気持ちをもって接すること。これは簡単そうに見えても、とても難しいことだと体験をしてみて感じました。」とまとめていました。

次年度から剣道部の募集を休止いたします

生徒数減少に伴い、次年度から剣道部の募集を休止いたします。生徒へは11月の全校朝会で説明を行いました。今後、新入生入学説明会の折、児童そして参加保護者の皆様へ説明を行います。

【参考】佐々木中学校の生徒数はこの10年で約120から約60名の半分に減り、学級数が減り、それに伴い職員数も減りました。今後6年間、生徒数は約60名、学級数3又は4の現状維持で推移する見込みです。